

令和5年4月15日  
北関東フォーラム  
於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム 令和5年度 第4回

### メディアは国民を誘導している

おはようございます。ただ今の開会挨拶で今井副理事長が中斎塾フォーラムで最近話していることについての重要なポイントを言われましたので、そこから話をさせていただきます。繰り返しになりますが、初めて参加をされた方もおられますから、新聞の見方についてお話します。

私は10年ぐらい前までは、「新聞は素直に読んで、必要だと思うものをよく読めばよろしいでしょう」と言っておりました。その後、だんだんメディアが変わってきました。意図的なものか意図的でないかは別として、結構間違いがある。事実を事実通り書かないことがよくあるので、「中身が正しいか、正しくないか自分でよくお考え下さい」と変わりました。

4、5年前からは、「メディアが報道するものは事実半分と考え、熟読玩味して自分で判断して下さい」と申しました。最終的に出てきたのは、「メディアで報道するものはほとんど信用できないけれども、ヒントがたくさんある。そのヒントをもとにして自分でお考え下さい」と申しました。

今現在、私がどのように見ているかというと、メディアは国民のものの考え方を誘導しようとしている。戦時中の大本営発表と同じだと思っています。大本営発表という言葉は、若い方はピンと来ないと思います。戦時中、大本営が国民に向けて発表した戦況情報で、実際は日本軍が戦地で負けて逃げ出した状況でも、「転戦した」と虚飾し発表したりしました。

メディアが国民を誘導すると言った理由をお話します。

昨年の10月にロシア駐日大使の講演を聞く機会があり、お話を伺いました。私が「アメリカとロシアは現在、戦争状態にあると思っています。ロシアを代表する大使として、どう思いますか」と質問しますと、「武力による戦争はしておりませんが、ハイブリッド戦争はしていると思っています」と、戦争という言葉を確認に使っていました。その方は、その後駐日大使を退任したそうですから、そろそろ辞める時期だと分かっていたので思い

切った発言をしたのだと思います。

フォーラムに始めて参加された方にお聞きしますが、ハイブリッド戦争や三戦という言葉をご存知ですか？

ハイブリッド戦争は、最近メディアでは認知戦という言い方をしています。自分たちに都合の良い情報を世間に広げる。つまり、自分たちの都合の良い情報が世界各地に広げられる事で、勝った者が認知戦の勝者となります。

三戦は、中国が2003年に中国人民解放軍の方針として、「三戦」を大いに活用すると発表しました。一言で言えば、いかに相手を騙すかという戦い方です。いかに相手を騙すかという考え方をもって、騙し騙される状態になっているのがハイブリッド戦争です。

三戦の中身の一つ申しますと、中国はこういう法律を作りました。中国人民はどここの国に住んでいても、中国の法律に拘束される。仮にアメリカと戦争することになった場合、アメリカに住んでいる中国人は武器を持ってアメリカと戦いなさい。戦わなければ中国の法律で罰する・・・というものです。そんな馬鹿なことがあるわけがないと日本人は普通思いますね。しかし中国企業に対しても、中国が他国と戦争状態に入ったなら、必ず母国を応援しなければならないと法律で決めたのです。

例えば、ファーウェイが持っているいろいろな情報も、中国政府が必要であれば提供しなければならないというわけです。ですからアメリカはファーウェイの副会長を逮捕しました。ちょっと前に解放しましたが、ファーウェイをターゲットにして厳しい規制をかけています。

ロシアがクリミア半島を侵略して自国領にした時の状況は、皆さんご存知ですか？ 或る日突然、電気が消えました。テレビが映らなくなり、ラジオも止まりました。スマホも使えなくなりましたから、知り合いに連絡しようとしても連絡ができない。どこからも情報が入らない。一体何が起きたのだらうと思って外を見ると、町中を戦車が走っている。あっという間に、庁舎からテレビ局からすべて制圧されてしまったのです。こういった情報はなかなか出て来ません。

ウクライナはそれで勉強したわけです。ウクライナのデジタル担当の大臣がアメリカに行き、ガーファ等々を回って、もしロシアがまた攻めてきた時は応援してくださいと頼んだ。その中で、イーロン・マスク氏が支援を約束しました。マスク氏がツイッターに、「私は、プーチン氏に決闘を申し込む。賭けるのは、ウクライナ」と投稿し、話題になりました。

ロシア・ウクライナ戦争については、自分の知っている情報と知らない情報も含め、色々

な情報が入り乱れています。ただ怖いのは、ロシアもウクライナも自分の国にとって都合の良い情報を流している。私が当初不思議に思ったのは、何故ウクライナの情報ばかりが流れて、ロシアの情報がないのかということです。公平をうたっているメディアは、ロシア半分・ウクライナ半分の情報があつてしかるべきなのに、ウクライナの情報ばかりが報道されました。先ほどお話したロシアの駐日大使が、「日本の国民はロシアが出す情報をシャットアウトされている。ロシア発の情報も日本国民に聞いて貰いたい。これはお願いです」と嘆いていました。

ウクライナがそれだけ情報を世界各国に流せるのは、マスク氏が手掛ける衛星スターリンクを使って情報を発信しているからでしょう。ウクライナが善戦し、ロシアが占領した地域を奪回しているというニュースが結構流れていますが、それもスターリンクによってロシアの戦車の位置等のある程度正確に把握できるから、そこをピンポイントで攻撃し、戦果を挙げているわけです。

最近メディアでよく出るのは、ウクライナがNATO諸国に対して、もっと攻撃能力の高い武器を提供して貰いたいと頼んでいます。現状は、アメリカもロシアを一撃のもとに倒すような武器は送っていません。それに対してロシアは、これ以上ウクライナに味方をするなら我々も考えがある、と核攻撃をちらつかせています。また、味方をもっと作りたいたいと必死に動いています。現在は中国が味方になりました。インドは中立だと言いつつ、経済的には自分たちの利益になるから、ロシアからどんどん油を買い込んでいます。それによってロシアはお金が潤沢に回り出している。経済的支援を中国とインドがしている現状です。

今までお話したことは普通にメディアで流れていますから、これは腑に落ちて良いでしょう。いずれにしてもロシアもウクライナも自分たちにとって都合の良い情報を世界に拡散しています。自分たちにとって都合の良い情報をどれだけ世界に対して流せるか、今、そういう戦いをしている最中なのです。

今までの話がピンと来ない方にもう少し分かりやすくお話ししましょう。

新聞は広告によって成り立っています。買ってくれる方がいるから成り立っています。ちなみに私は新聞にどれくらいの広告が掲載されているかを調べました。30ページのうち、だいたい26~27ページは広告です。ですから沢山広告を出してくれる人の言う事を、かなり聞かなければならない仕組みになっています。テレビも同じで、スポンサーの言う事は聞かなければならない。そういう状態でテレビは流れています。ネットも同じです。つまり、お金をたくさん出してくれる人の言う事を聞かなければならないわけです。

国家も同じです。沢山お金を出してくれる国の言う事は聞かなければならない。例えば、スリランカは中国からお金を借りてインフラを整備しています。国際的な金融機関からお金を借りると年利1%ぐらいですが、中国は年利7%です。しかも返済期限も短い。この債務の罠に陥って、スリランカは99年間インフラを抑えられてしまいました。

ということで、お金を出してくれる所、お金を貸してくれる所には、国も弱いし企業も弱い。テレビも新聞も民間企業ですから、お金を出してくれる所には弱いのです。ですから、物事を見る時の判断基準の大きなものとして、お金がどこから流れて、どこに入り、誰が儲けたか、これらを調べる必要があります。例えば、コロナについてみれば、コロナで誰が儲けたのか、どこの国、どこの企業、或いは誰が一番利益を上げたのか。誰がお金を出して、誰の所にお金が一番集まったのか。・・・そういうものの見方をすると、国家間の紛争も同じ基準で判断が出来るし、国の中も判断が出来る。会社も見えるし、家庭もそういうお金の流れから見えます。

今井副理事長の発言に示唆を受けて話が広がってしまいました。初めて参加された方に分かって戴くのに必要だと思ってお話させて戴きました。

## 論語解説

では、論語に参りましょう。

論語は、孔子と孔子のお弟子さんの言行録です。孔子が亡くなり暫く経ってから、孔子の弟子・孫弟子たちが集まって、孔先生が言われたこと、そのお弟子さんが言われたことをまとめたものです。論語の中には、素晴らしい章句が沢山あります。ところが論語を生んだ中国では、理想論で語られているから現実とは相反するという事で、論語を良いものとする人はごく一部です。日本の方が中国の人たちより遥かに深く論語を哲学として理解し、納得し、血肉にしていると思います。

論語の章句をどう読むかという、今の時代に役に立つものでなければ話になりません。学問は、日常生活に役立たなければ学問とは言えません。日常生活に役に立たない学問は似非学問です。

学問には、縦の学問と横の学問があります。人間の哲学、人間の生きざま、人間の生き方を考えさせる、教えてくれる学問は、縦の学問といいます。知識として横に広がるのは、横の学問です。今自分が興味を持っているものは哲学的なものなのか、横に広がるものなのかを考える必要があります。

学問のあり方で言うと、物事を判断する時には、本質と歴史と大局で見るという判断基準があります。本質は、何か問題が起きた時、何が狙いなのか、本当の目的は何かを考え

る。歴史は、何か問題が起きた時、今までにどういうことが起きてきたか、10年・20年・30年・50年・100年単位で歴史を調べる。大局は、色々な立場に立って問題を見る。国で見れば、それぞれの国によって根拠は皆違うから、発言の内容は全部違います。家庭で言えば、お父さんの主張、お母さんの主張、子供たちの主張、それぞれの立場に立ってみれば内容が変わってくる。こんな見方もするのかわという見方が出てきます。つまり、物事を判断する時には、森羅万象全て本質と歴史と大局で見なければならぬ。それが、私が物事を見る時の一番根幹になります。ですから論語を説明する時も、その判断基準によって説明をしています。

素読から参ります。今日のテーマは「民」です。私が読みますので、後についてお願い致します。

(素読)

では、解説を致します。

① そうし いわ おわり つつし とお お たみ とく あつ き  
曾子曰く、終を慎み遠きを追えば、民の徳厚きに帰す。(学而第一・9)

曾子は孔子のお弟子さん、高弟です。

曾子が言うには、親の葬式は心から悲しみ間違えのないように行うものだ。祖先の供養は真の心を持って尽くす。そのように君主が実行すれば、君主の人徳が国民に伝わって、自然と思いやりの心を持って接するようになる。

・・・君主の立ち振る舞いが大事であると言っています。

会社に置き換えて考えます。シムックスは2年後に創業50年を迎えます。会社を作った頃の頃、私は社員に「会社が潰れるかどうかは、社長にかかっている。私に3つの兆候があれば、他の会社に行っていただいて結構である」と言いました。会社が潰れる兆候の一つは、社長が3日間連絡が取れなくなったら危ない。二つ目は、社長が外車を乗り回すようになったら危ない。三つ目は、社長が2号さんを囲っているという話を聞いたら危ない。これを守るのは結構大変でしたが、何とか現在まで守り続けています。

ですから自分が何かの地位に就いた時、こうやるぞ！と意思表示したことは守っていくことが肝心です。余分ですが、結婚する時「一生涯、君を愛し続けるよ」と、その時の刹那的な感情で言ったとすると、ずっと縛られる事になります。これから結婚する人は、縛られる事のない台詞で口説かれると良いと思います。

② 君子 親くんし しん あつに篤すなわければ、則たみち民 仁じん おこに興こきゆう わする。故 舊すなわ 遺たみれざれば、則うすち民 儉うすからず。  
(泰伯第八・2)

君子が親孝行であれば、国民は思いやりの心を持つようになる。昔の友達を粗末に扱わずに厚い交友をしていれば、国民は薄情な人は少なくなるだろう。

これはエリザベス女王と日本の皇室とのお付き合いの仕方をずっと見ていると、なるほどなどと思う部分がかかなりあると感じます。

③ 子 曰し いわく、民は之たみ これに由よらしむべし。之これ しを知らしむべからず。(泰伯第八・9)

私はこの章句が好きです。政治家の方と話をする機会がありますが、その時には大概この話を致します。そうすると、ほとんど間違えて理解をしています。

「民は之に由らしむべし」・・・言行一致で世の中のためになることをやっていれば、自然と民は寄ってくるものだ。

政治家は選挙の時だけ「一票をお願いします」と言っていますが、日頃から言行一致であれば、そんなこと言われなくても、あの人の言うことは信用できるからと投票しますね。

「之を知らしむべからず」・・・自分の本意、真意を国民に伝えようと思ってもなかなか伝わるものではない。

政治家は言って良い事と悪い事があるから誤解もされるけれど、そこは言行を見て貰うしかありません。よく「歴史が審判をする」と言いますが、死んで100年経たなければ、真価が分からないということです。

ですからここは、政治家は嘘をつくな、約束を守り実行せよ、そうすれば選挙の時だけペコペコ頭を下げないで済む、とお考え下さい。これは会社でも、家庭でも同じです。トップが腹にあることを全部話して理解してもらおうと思っても、相手は曲解して受取ることが多いから、本当の真意は伝わらない。ただ、言う事とやる事が一致していれば、自然と皆が寄ってくる。そう理解すればよろしいでしょう。一言で言えば、嘘はつくな・約束を守れ・言った事は実行せよ、ということです。耳の痛い方が結構おられると思うので、時々、己を正す意味で読んで戴くとよろしいでしょう。

④ 子貢 政しこう まつりごとを問とう。子 曰し いわく、食しょくを足たし、兵へいを足たし、民たみ 之これを信しんずと。子貢 曰しこう いわく、必かならず已やむことを得えずして去さらば、斯この三さん者しゃに於おいて何いずれをか先さきにせんと。曰いわく、兵へいを去さら

しこう いわ かなら や え さ こ にしゃ おい いず さき  
んと。子貢 曰く、必 ず已むことを得ずして去らば、斯の二者に於て何れをか先にせんと。  
いわ しょく さ いにしえよ みな し あ たみ しん な た  
曰く、食 を去らん。古 自り皆 死 有り。民 信ずる無くんば立たずと。

子貢は目から鼻に抜ける、とても頭の良い、そして実行力もあるお弟子さんです。ここは、ロシアとウクライナの戦争を頭の中に置いて考えて下さい。

子貢が孔子に、政治について聞きました。

孔子が言うには、「食料はきちんと国民に行き渡るようにしなさい。他所の国からの攻撃に備えて、軍備は十分にしなければいけない。そうすれば、民は国を信用するものだ」

ロシアの国民は今、食料は足りているのでしょうか？ 軍備は十分整っているのでしょうか？ ウクライナはどうでしょうか？ ちょっと考えて下さい。

日本でみれば、戦争はしていませんが、自然との戦いがあります。3.11の時、宮城や福島の人たちは食料が足りていたでしょうか？ 寝る所、エネルギー、情報等々を軍備と捉えた場合、足りていたでしょうか？

前にお話したことがあります。3.11の後に南相馬市の市長さんの講演を聞く機会がありました。「我々は国から見捨てられたと思いました」と発言されたのが大変印象的でした。というのは、3.11のすぐ後に新聞社が取材に来るはずだったのが、急遽中止になった。後で確認すると、汚染された地域に行ってはならないと本社から指示があったからだと分かったそうです。当時は情報が届かない、食べ物が届かない、医者も来ない状況で、自分達は国から見捨てられたのだと感じたということでした。

日本の国は自然災害の時、市民や行政の長が<国から見捨てられた>と感じるような対応をした。これは紛れもない事実です。それが今度は国全体に広がると思っています。

ですからこの部分は、大地震の時、すかさず食料や必要な物資が届く、汚染されたことを極力排して駆けつけてくれる、そういう事を国が実行してくれれば、国民は国を信用すると捉えれば宜しいでしょう。

子貢が更に尋ねました。「やむを得ない事情があって、食料と兵と信頼のうち一つを犠牲にするとしたら、どうしたらよいでしょう。」

孔子が言うには、「まず、軍備を省きなさい。」

子貢がまた尋ねました。「どうにもならない理由で、どちらかを省くとしたら、何を先に削ればよいのでしょうか。」

孔子が答えるには、「食べ物を削ることだ。古来より人は必ず死ぬものである。しかし、

国民からの信頼を国家がなくしたら、政は出来ない。民からの信頼をなくしてはいけない。」

そういう点から見ると、ロシアは真逆ですね。今、徴兵制を復活させています。若者をとにかく戦場に送るために、信頼をなくしても軍備を増強しようとしているのが現時点で伝わってくる内容です。

このように 2000 年以上も前に書かれた論語の中の文章が、現実にぴったり当てはまります。ロシアはどうしてこういうものを見ないのか。プーチンさんが柔道を好きであれば、柔道を通じてこういうものを勉強した方が良さだろうと感じますが、KGB 出身ですからなかなか難しいでしょう。

ウクライナも似たり寄ったりだと私は思っています。何となくウクライナ発の情報は善であり、ロシアが悪と捉えているけれども、視点を変えれば五分と五分だと思えます。どちらが味方を作ったかというだけの話です。ウクライナは情報戦で勝って、今、認知戦に勝ちつつある状況です。

ウクライナが知らず知らずのうちに善であると捉えられていますが、私は、これはコレステロールと同じだと思っています。善玉コレステロールと悪玉コレステロールという言い方をしますね。善玉コレステロールが増えれば良いことがあるように思いますが、善玉でも増え過ぎるとやはり良くはない。善と悪というネーミングの問題で、そういうふうに錯覚させられているだけです。ロシアとウクライナもそのように見えます。

⑤ し いわ たみ じん お すいか はなは すいか われ ふ し もの み 子曰く、民の仁に於けるや、水火よりも甚だし。水火は吾踏みて死する者を見  
いま じん ふ し もの み る。未だ仁を踏みて死する者を見ざるなり。（衛霊公第十五・34）

孔子が言うには、水や火は人間が生きていく上で絶対必要なものだが、それよりはるかに道徳は欠くべからざるものだ。水害で死ぬ人もいるし、火事で焼け死ぬ者もいるが、私はまだ、道徳を守って殉じる者を見たことがない。

・・・これは不思議だと孔子が嘆いています。道徳がなければ人としての心を失うようなものなのだから、我々は道徳を身につけようではないかと捉えれば良いでしょう。

今日のテーマは「民」ですので、自分が国家の重要人物であればどうかと考える。会社の中で重要人物であればどうかと考える。皆さん家庭をお持ちだとして、家庭の中で自分が重要人物であるとしたら、何を守ろうとするかお考え下さい。津波や大地震、火事等々



の大変な災害が襲ってきた時、自分が家族を守る立場であればどうするか。

カルネアデスの舟板はご存知でしょう。海上で遭難したと仮定します。自分が掴まっている板に近づいて来たのが大嫌いな人間だったらどうするか、自分の母親だったらどうか、子供だったらどうか・・・極限状態の時、自分はどうか？

自分が極限で追い詰められた時、どう判断すれば良いか。どう考え、どう行動すればよいか。それを考える基準を、論語の中から見つけて欲しいと思っています。論語を読んでいく中で、一つでもよいからこれは大事だと思う言葉を見つけて、自分の規矩準繩・判断基準にすればよい。ちなみに私は、「利に放りて行えば、怨多し」という言葉を論語の中から見つけて自分の判断基準にしています。

### 恒例の質問

では、恒例の質問をさらっとお聞きします。

○ 今年に入ってから、良い日がずっと続いていると思う方

客観的に判断すると、手を挙げるのを迷ってしまいます。あくまでも主観で考えましょう。

○ 今年に入って、嘘はつかなかつたし、嘘をつかれることもなかった方

○ 有難うと言うことが多かったし、有難うと言われ続けた方

○ 身体の手入りをよくやっている方

安岡正篤先生は、若くて綺麗な人ほど心の自分磨きをしなさいと言っておられます。いくら美人でも、心の手入りをしないと、お婆さんになった時に大変なことになる。心の手入れをしていれば、品の良いお婆さんになるそうです。

○ 今年に入って、自分磨きをよくやっている方

○ 昨晚眠る時に、明日以降を過去形で考えた方

### 時事評論

令和5年を考える 一癸卯（みずのとう）

干支学で、60年周期で考えようということです。60年前の事が、1周廻って大体同じ事が起きてくる。60年前を調べれば、似たような事がいくつも見つかりますから、どうぞお調べになるとよろしいでしょう。

繁栄か没落、岐路の年

先月までは、分かれ道の年という言い方をしていました。もう3ヶ月経ちましたから、これから日本がぐんぐん発展するとは言いません。これから日本は悪くなる。それがはっきり世の中に分かる年である、そう申し上げてよい状況になったと思っています。具体的な説明は次回お話致しましょう。

### コロナは死亡しないことが肝心

昨年の暮れぐらいから、今年の6月は危なくなるという話を聞いておりましたが、お話しませんでした。それが、だんだん信憑性の高い情報になって来ました。コロナで死亡しないことが肝心です。従来から実践しているマスク・手洗い・うがいを強化して下さい。それから「三密」も意識した方が良いでしょう。死んでしまったら元も子もありません。

もう一つ、私はワクチンを一度も打っていませんが、ワクチンを打っている人はもう打たない方が良いでしょう。以前は「ワクチンを打つか打たないかはご自分で判断して下さい」と言っていました。「ワクチンを3、4回打った人は危ない」という話を聞き続けていますが、最近、6、7回という言い方に変わりました。いずれにしても、今の段階でワクチンは止めておいた方が良いでしょうと申し上げておきます。なぜならば、ワクチン打ったことによって、異物が身体の中に入り過ぎる。異物が入るとするのは、やはり色々問題が起きます。死も近づく危険性があるという話になります。この理由は、今年は騙されないようにという部分と重なります。

### 今年は騙されないように

レジメの右下にある「コロナ死亡者数」をご覧ください。最初の年は、1年間で3492人が亡くなりました。2年目は1万4901人が亡くなり、3年目は3万9141人が亡くなりました。今年の1月から3月までの間で1万6428人です。これは2年目1年間の死亡者より増えているのです。

今年の月別の死亡者は、1月が1万1071人、2月が3921人、3月は1436人と、1月が飛びぬけて多い。4月は昨日の14日時点で287人です。問題は、「新聞報道等による」と表記しました「等」の文字にあります。政府が嘘をついているということが、この「等」に入っています。

政府の言うコロナ感染者の定義はどうだったのか、最初の頃と今とどう違ったか。コロナの死亡者の定義はどうか、どういう状況で亡くなった人をコロナ死亡者と認定するのか・・・厚生労働省が出した通知を調べるとよろしいでしょう。コロナに罹った人が他の病気で死んだ場合も、コロナ死亡者として国に報告を上げるというのが、初めに厚生労働

省が出した通知です。親しいお医者さんがいれば、陽性者の定義は当初どういうものだったか、今の定義はどうなのか、死亡者の定義はどう変わっているか等々、聞いてみるとよいでしょう。

政府が発表するものは眉唾が多すぎます。政府が大きい声で発表しているものは、国民を惑わす言葉が多い。自分で考えなさいといっているわけです。

私は最近、どうして政府はこれほど嘘をつくのかと思っています。それからメディアが大きい声で報道しているものも要注意です。先日まで、侍ジャパン・大谷選手、WBCの話題でメディアは占領されていました。世間が何か大きな報道で沸き立っている、そういう状況の時には、必ず陰で何かが起きている、国民が知ってはならないような話がどこかで進んでいる。そう私は思いますし、一体何があるのだろうと調べるようになりました。

お時間が参りました。本日の講話はこれで終了致します。有難うございました。